

## 将来都市像（案）について

第6次総合計画は基本的には第5次総合計画を踏襲した形で策定を進めていくが、この10年間で、生駒市を取り巻く社会環境が変化し、新たに対応すべき主要課題も発生している。

それらの課題や生駒市の特性を考慮し、見直しの必要性と見直す場合の見直し案について、審議会の各委員から意見をいただくとともに、まちの魅力発信に参加されている市民の方にも素案づくりにご協力いただきながら、将来都市像の見直し案について検討する。

### 1. 生駒市を取り巻く社会環境の変化

- 人口減少・少子高齢化の進展
- 安全・安心への意識の高まり
- 地球環境問題の深刻化
- 社会経済構造の変化
- 高度情報化社会の進展
- ライフスタイルや価値観の多様化
- 地方財政の深刻化と公共施設の老朽化

### 2. 生駒市の特性（類似団体との比較）

- ベッドタウンの特徴が顕著
  - ⇒ 「年少人口比率」、「年少人口増加率」が高い。
  - ⇒ 「自市内従業割合」、「昼夜間人口比率」が低い。企業等による経済活動の水準が低い。
  - ⇒ 「持家世帯比率」、「一住宅あたり住宅述べ床面積」高い。
- 「公共下水道普及率」が低い。
- 「納税者1人あたり課税対象所得」が高く、住民の所得水準が非常に高い。
- 「建物火災出火件数」、「交通事故発生件数」が低く、安全・安心の面で優れている。
- 行財政運営に関する主要指標は類似団体平均よりも良好な値を示している。

### 3. 生駒市の主要課題

- 人口減少対策
- 高齢人口の増加への対応
- 大規模災害への備え、防犯安全対策
- 従来型のベッドタウンから新しいライフスタイルに対応できる次世代型の住宅都市への転換
- 人口減少に伴う施策（都市構造）の見直し
- 学研高山地区第2工区の展開を見据える

## 4. 分野別計画のスローガン・都市宣言

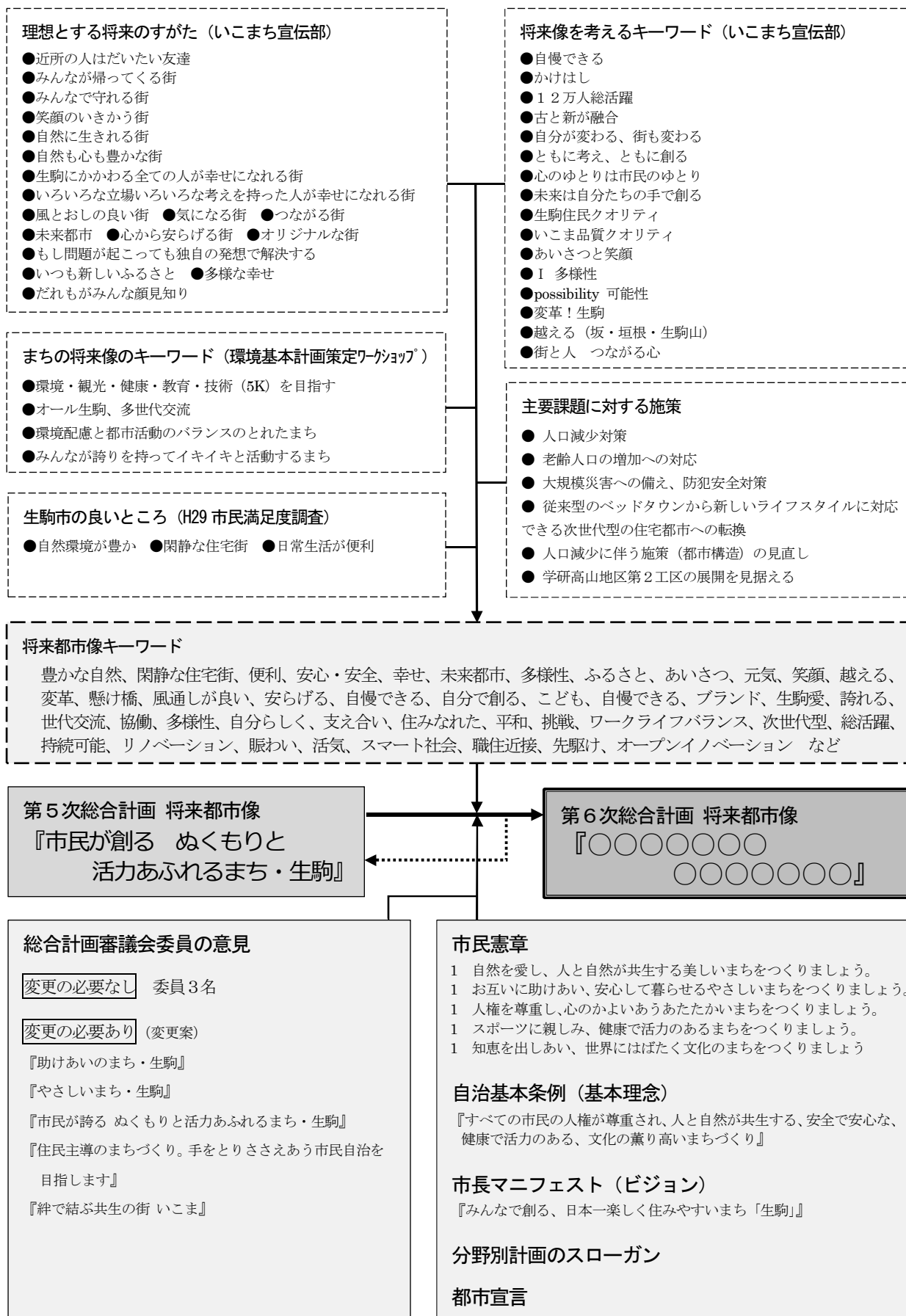
大分野（案）	施策	分野別計画のスローガン・都市宣言
1. いつまでも安心して暮らせるまち	(1) 高齢者の生活を支えるサービスの実施 (2) 障がい者の生活を支えるサービスの実施 (3) 医療サービスの充実 (4) 健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生駒市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画 (H30-32) 『高齢者をはじめ、すべての市民が共に協働し合い、時に支え、時に支えられながら、住み慣れた地域で可能な限り自分らしくいつまでも健やかに安心して暮らせるまち いこま』</li> </ul>
2. 子育てしやすく、だれもが成長できるまち	(1) 子育て支援の充実 (2) 学校教育の充実 (3) 生涯学習・文化・スポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生駒市子ども・子育て支援事業計画 (H27-31) 『子育て楽しいね!いこま』～子どもも大人も笑顔で健やかに育ちあうまち～</li> <li>・ 生駒市学校教育の目標 『生駒を愛し、21世紀を生きぬく力を身につけた、優しくたくましい子どもの育成』</li> <li>・ 生涯学習推進基本方針 (H21-) 『いきいきと楽しく、心ふれあう、まなびの都市(まち)・生駒市』</li> </ul>
3. だれもが安全に暮らせるまち	(1) 地域防災体制の充実 (2) 生活の安全の確保 (3) 人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非核・平和都市宣言 (S60.9月) 『世界の恒久平和は、人類共通の願いであり人類生存の不可欠の要件である。 しかしながら、世界の实情は私達の願いに反して、核軍備の競争は、ますます激化し世界の平和と安全に重大な脅威をもたらしている。 わが国は、世界唯一の核被爆国として、地球上にあの広島・長崎の惨禍を二度とくりかえすことのないよう非核三原則を堅持し、核兵器の開発・実験のすべての禁止を世界に訴えるものである。 わたしたち生駒市民にあっても、世界と日本の不戦と平和は、平和憲法の理念にもとづきあらゆる国のあらゆる核兵器が廃絶されることを心から願い、平和で安全な生駒市を築くため、一層の努力をつづけることを誓い、ここに生駒市は「非核・平和都市」であることを宣言する。』</li> <li>・ 男女共同参画都市宣言 (H20.2月) 『私たちは 男女平等を基本理念とし 互いの人権を尊重し 男女が共に一人の人間として自立し 自らの意思で生き方を選択し 社会のあらゆる分野に対等に参画し 喜びと責任を分かち合い あらゆる人が心豊かに生き生きと暮らせる生駒市を築くため ここに「男女共同参画都市」を宣言します』</li> </ul>

大分野（案）	施策	分野別計画のスローガン・都市宣言
4. 環境にやさしく、自然と都市機能が調和した、住みやすいまち	(1) 環境配慮社会の構築 (2) 適切な土地利用の推進・学研都市との連携 (3) 交通ネットワークと生活基盤の整備 (4) 緑・水環境の保全と創出	・ 生駒市環境基本計画 (H26-30) 『豊かな自然と歴史と未来が融合したまち「いこま」』
5. 市民が主役となってつくる、にぎわいと活力のあるまち	(1) まちづくりにおける市民参画と協働 (2) まちの魅力創造と発信 (3) 観光と多様な交流の促進 (4) 商工業の振興と就労・就業の促進 (5) 農業の振興	・ 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (H27-31) 『女性が活躍しながら、安心して2人目、3人目の子どもを産み、育てられる先進的住宅都市・生駒』
6. 持続可能な行財政運営の推進	(1) 健全で効果的・効率的な行財政運営の推進	・ 生駒市人材育成基本方針 (H27-31) 『高い見識と人柄で他者との信頼を構築し、リーダーシップを発揮して信頼を具体的な成果に換え、価値を創造できる職員』

#### 5. 生駒市の主要課題に対する施策に係る将来都市像キーワード

生駒市の主要課題	施策	将来都市像につながるキーワード
(1) 人口減少対策	子育て支援、教育、定住促進、シティプロモーション	笑顔、幸せ、子ども、自慢できる街、ブランド、生駒愛、誇れる街、世代交流、オール生駒、元気、協働、未来に続く、百年続く
(2) 高齢人口の増加への対応	医療介護連携、在宅医療、地域包括ケアシステムの構築、介護予防	笑顔、多様性、幸せ、自分らしく生きる、支え合い、健康寿命、住み慣れた地域
(3) 大規模災害への備え、防犯安全対策	危機管理・防災対策の推進、防犯・交通安全対策の推進	安心・安全、平和、みんなで守る、つながる、
(4) 従来型のベッドタウンから新しいライフスタイルに対応できる次世代型の住宅都市への転換	起業促進、職住近接、働き方改革、テレワーク	未来都市、挑戦、ワークライフバランス、豊かな自然、先進的住宅都市、次世代型住宅都市、女性活躍、総活躍、越える
(5) 人口減少に伴う施策(都市構造)の見直し	ファシリティマネジメント、コンパクトシティ	持続可能、便利、自然、まちづくり、リノベーション、賑わい、活気、生駒山
(6) 学研高山地区第2工区の展開を見据える	大規模開発、インフラ整備、学研都市	都市、自然環境、スマート社会、産学官協創、職住近接、先駆け、オープンイノベーション

## 6. 将来都市像（案）の検討の流れ



## 7. 将来都市像（案）

### （1）総合計画審議会委員からの提案

- ①『市民が創る めくもりと活力あふれるまち・生駒』 **第5次総合計画から変更しない**
- （理由） 住民が出来る事を進んでするのが大事だと今回の機会です再認識し、それが将来めくもりと活力あふれるまちづくりになると思ったから。また、このままでさらに市民にPR発信していくことがよいと思ったから。
- ②『助けあいのまち・生駒』 or 『やさしいまち・生駒』
- （理由） これまでの将来都市像を見ても感じるのですが、まちづくりの目標を何らかの形で盛り込もうとしているのか、とにかく長々としたフレーズで逆にイメージが沸かないのでは、と思いました。シンプルな方が、分かりやすいのではと思います。第6次は、一番に人口減少、特に生産年齢人口の減少が懸念されることから、お互いが「自分」だけでなく他者と助け合って、みんなにとって「やさしいまち」であることが求められると考えます。
- ③『市民が誇る めくもりと活力あふれるまち・生駒』
- （理由） 「創る」表現は、市民力でまちづくりを推進し、市民の自治力を優先してきていることから、第5次で市民の協働で出来上がった成果を誇り、第6次総合計画では、住みやすい市として人口増などを狙う都市像を打ち出す方向として提案いたします。
- ④『住民主導のまちづくり。手をとりささえあう市民自治を目指します』
- （理由） そんなまち生駒でありたいから。
- ⑤『絆で結ぶ共生の街 いこま』
- （理由） 増える高齢者と子供たちが関わりふれあいの温かさを知りベッタウンだけでなくこの町での工業生産を生み出し主婦も社会参加していける都市へ。

### （2）事務局案

- ①『あなたの暮らしが見つかるまち』
- （理由） 少子高齢化が進む中、子どもや高齢者の方も含めて、すべての市民が自分らしい暮らしができるまちになることを目指すという思い。
- ②『百年先も 続き繋がる紡ぐまち』
- （理由） 「百年先も続き」は、人口減少に転じる中であっても、持続可能な都市経営を進め、わたしたちのまちが百年先もあり続け、「繋がり紡ぐまち」は、市民と市民、市民と行政、企業と行政など多様な主体が連携し、互いに共有できる価値を紡ぎだし、創造することで、新しいカタチの住宅都市を創っていきたいという思い。
- ③『共に創る 彩りあふれる未来 百年続く住みよいまち』
- （理由） 「共に創る」は、市民と行政をはじめとする多様な主体との連携による協創のまちづくりを進め、「彩りあふれる未来」は、多様化するライフスタイルに伴い生駒市に住む一人ひとりが望む様々な暮らし方や未来の実現を目指し、「百年続く住みよいまち」は、人口減少に転じる中であっても、持続可能な都市経営を進め、これまで住みよい住宅都市として評価されてきたまちが百年先もあり続けたいという思い。
- ④『ともに考え ともに創る 自分が変われば まちも変わる』
- （理由） 「ともに考え ともに創る」は地域行政の政策課題が複雑・多様化していく中、行政だけで解決できることが少なくなり、市民、企業、大学等と行政がともに考えることで、地域課題を解消していく姿、「自分が変われば まちも変わる」では自ら行動することがまちをより良い方向に導き、まち全体が自分自身を越えて

いく姿をイメージした。

⑤『みんなで創る 子どもの笑顔はじけるまち 生駒』

(理由) 人口減少時代に突入し、子どもの数も減っていく中、行政、地域、事業者、市民ひとりひとりが力を合わせて、「子ども」を守るという共通認識を持ち、「子ども」が笑って過ごせるまちを創っていきたいという思い。

⑥『仕事・生活・地域が融合した 多様なくらしができるまち ～次世代の住宅都市 diversity～』

(理由) これまで大阪のベッドタウンとして成長したことから、就業や消費を大阪に依存してきた。これからは、市域で働き、生活する職住近接の暮らしだけでなく、地域コミュニティにおいても活躍し、市民が望む多様なライフスタイルを実現することができる「ワーク・ライフ・コミュニティ フュージョン」を目指したまちづくりを行いたいという思い。